

交通事故に対する 安全対策

本学学生が関係した交通事故（物損事故は除く）は、昨年1年間で9件発生しました。そのうち、加害者となった事故は2件ありました。

また、開学以来26年間（平成7年4月開学）で9名が交通事故により亡くなりました。

みなさんのような若者の事故の特徴は自爆型（スピードの出し過ぎ等）による無謀運転による事故が多いといわれています。本学でも通学途中の自動車・バイクのスピードの出し過ぎや、原付バイクの2人乗りなどの違反が見受けられます。交通ルールを守るのはもちろんですが、安全運転に徹するよう心掛けてください。また、あなたの命を守るヘルメットやシートベルトは必ず正しく着用するようにしましょう。

交通事故を含む各種の事故は毎年4月～6月に集中して発生する傾向があります。慣れない生活環境の中での行動には特に注意してください。

交通事故は、死亡・重傷あるいは後遺症といった肉体的な損失を当事者に与え、学業の中断や絶望と、一瞬にして将来を閉ざすことになってしまいます。また、加害者になれば、金銭的な賠償責任や、刑事責任、運転免許証の行政処分などが科され、学生だからといった猶予はあり得ません。将来にわたり賠償金を払い続ける責任を負うこともあります。本人だけではなく、家族にとってもこれほど不本意なことはありません。

車社会にあつて、自動車もバイクも大変便利なものですが、その引き換えに危険と責任を自覚し、覚悟しなければなりません。「交通安全に対する自覚」、「交通道德の向上」、「他人への思いやり」を心掛け、実践することが必要です。交通社会人としての責任を日頃より強く意識し、家族で話し合う機会を是非とも見つけてください。特に、子供や高齢者に対しては、思いやりのある運転を心掛け、安全で充実した学生生活がおくられるよう願っています。

自動車・ バイク・ 自転車を 運転するときの注意

1. 自動車・バイク

【自動車】は「人動車」

自動車は「人」の意思によって動きます。運転には、その人の性格がそのまま現れています。

まず自分を知ることからはじめよう

運転免許証を持っている人は、教習所で行った適性検査の結果をふまえて、持っていない人は免許証を取得するときに適性検査を受けて、自分の弱点をよく知り、カバー出来る方法を考えましょう。

睡眠不足、精神・身体的に疲労の状態では運転しない

2時間も運転すれば殆どの人は疲れます。腰痛や肩こり、目が疲れる等、色々と疲れます。しかし、一番危険な事は、脳の疲れにより、眠くなることです。大脳は、人の全体重の40分の1の重さにもかかわらず、5分の1の酸素を使用しています。この大脳にとって最大の休息は眠ることです。運転中に「**疲れたなあ**」と思うときは、**既にいつ居眠りをしてもおかしくない危険な状態**なのです。

過労防止のために

運転は認知、判断、操作の繰り返しです。つまり、休むことの出来ない強制的頭脳労働です。

過労にならないよう次のことに配慮しよう。

1. 出発前に十分な休養を取り、疲労を完全に取り除いておくこと。特に夏場は日中が長く、夜も暑いので熟睡しにくく、疲労が蓄積されやすい。
2. 長距離を走るときには、**1.5～2時間おきに最低10分以上の休憩**を取る（休憩する回数が多くなればその回ごとに休憩時間を長くする）。それでも、疲労感のあるときは必ず睡眠をとること。